

令和 3 年 8 月 3 0 日

川崎市子ども・若者調査結果分析の状況について

令和 3 年 4 月 2 8 日の子ども・子育て会議計画推進部会において、「川崎市子ども・若者調査」について分析を深めるようご意見をいただきました。これを受けて、社会調査の専門家からアドバイスをいただきながら分析を行い、その結果、大きく 2 つの課題が顕在化しましたので、報告します。この課題や課題解決に向けた施策の方向性について御意見くださいますようお願いいたします。

1 分析について

(1) 分析対象及びその概要

令和 2 年度実施の川崎市子ども・若者調査を利用して分析を行った。

ア 調査対象者、対象者数、有効回答数等

区分	調査対象	対象者数	有効回答数	有効回答率	配布方法／回収方法
調査Ⅰ	0～6 歳の子を持つ親	3,000 人	2,223 人	74.1%	郵送／郵送
調査Ⅱ	小学 2 年生の子を持つ親	3,295 人	2,839 人	86.2%	学校配布／学校回収
	小学 5 年生の子ども	3,105 人	2,638 人	85.0%	学校配布／学校回収
	小学 5 年生の子を持つ親	3,105 人	2,633 人	84.8%	学校配布／学校回収
	中学 2 年生の子ども	3,482 人	2,811 人	80.7%	学校配布／学校回収
	中学 2 年生の子を持つ親	3,482 人	2,825 人	81.1%	学校配布／学校回収
調査Ⅲ	16～30 歳の子ども・若者	3,000 人	1,184 人	39.5%	郵送／WEB 回答

イ 調査期間

令和 2 年 1 1 月 1 6 日から令和 2 年 1 2 月 7 日

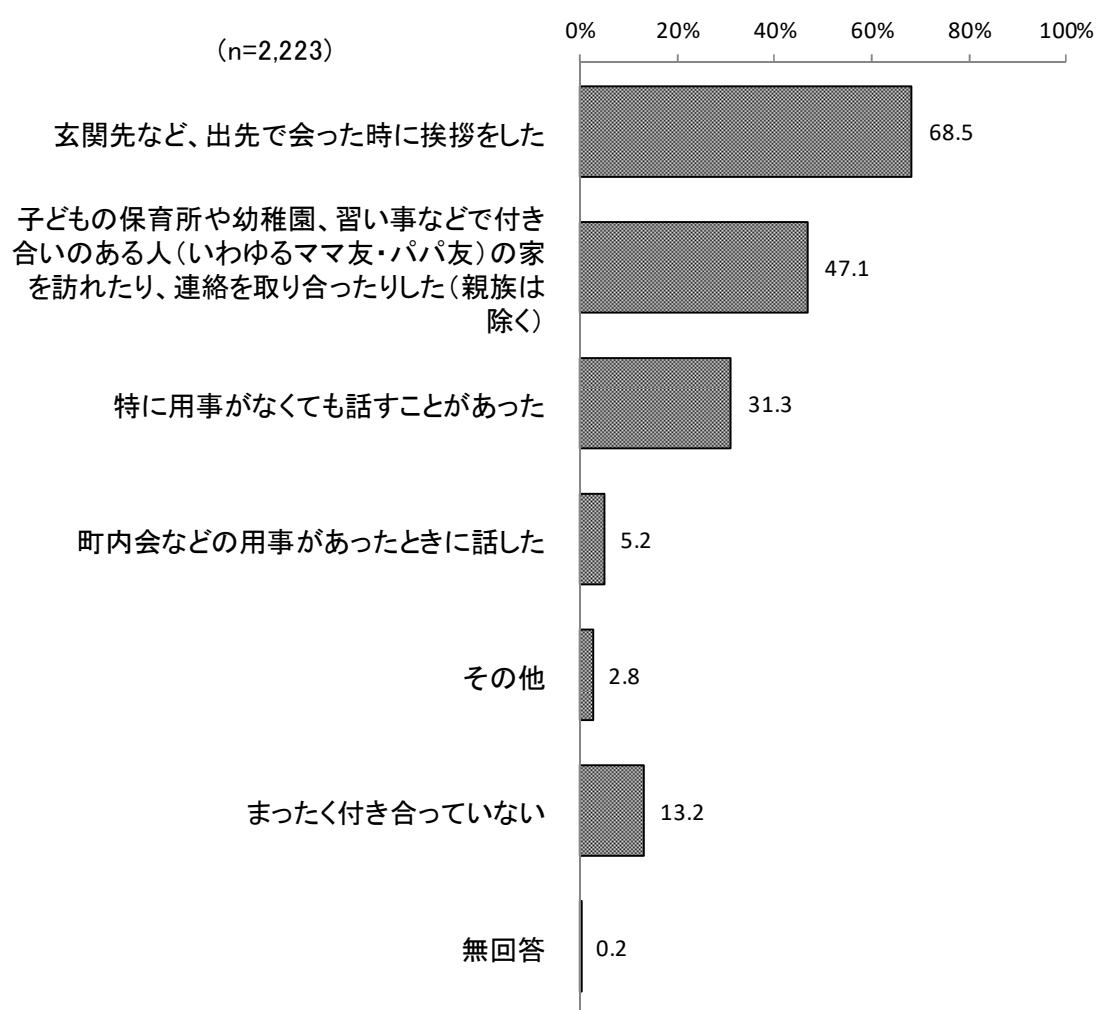
(2) クロス表について

本分析において、クロス表掲載の際には、 χ^2 検定によって統計的に有意であるかを検定している。その結果、5%水準で有意であるクロス表のみを掲載している。

2 近所付き合いのない親の傾向

0～6歳の子を持つ親に、「あなたは、この1か月間で、近所の人との交流をどの程度しましたか。」と尋ね、全6項目に対し、あてはまるものすべてを選択するよう回答を求めた（図表1）。この回答について、「無回答」を除き、「まったく付き合いがない」以外の項目を選択したものを「交流がある」とし、近所の人との交流の有無による回答の傾向を検討していく。

【図表1】近所付き合いの程度（複数回答）



まず、居住年数によって近所の人との交流の有無が異なるかを見ていく。「あなたは、どのくらい川崎市に住んでいますか。」の回答と近所の人との交流の有無でクロス集計を行った（図表 2）。その結果、居住年数と近所の人との交流には統計的に有意な関連がみられ、居住年数が少ないほど近所の人と交流がないと回答する割合が高いことが確認できた。

【図表 2】居住年数と近所付き合いの有無

		(n=2,218)		
		近所の人との交流		合計
		交流がある	まったく付き合いがない	
居住年数	1年未満	74.24%	25.76%	100.00%
	3年未満	76.79%	23.21%	100.00%
	5年未満	82.40%	17.60%	100.00%
	10年未満	89.70%	10.30%	100.00%
	20年未満	93.06%	6.94%	100.00%
	20年以上	88.89%	11.11%	100.00%
	合計	86.74%	13.26%	100.00%

次に、平日日中の保育所等の利用状況によって近所の人との交流の有無が異なるのかを見ていく。「お子さんが、平日の日中に主に利用している施設などについて、お答えください。」の設問について、「その他の施設」を除き、それぞれ「保育所や幼稚園に預けている」（「認可保育所」、「幼稚園」、「認定こども園（幼稚園機能のみ利用（短時間保育）」、「幼稚園+預かり保育」、「認定こども園（保育所機能を利用（長時間保育）」、「地域型保育」、「認可外保育施設」の合計）と「保育所や幼稚園に預けていない」の二値に分けて近所の人との交流の有無とクロス集計を行った（図表 3）。その結果、保育所や幼稚園の利用と近所の人との交流の有無には統計的に有意な関連がみられ、保育所や幼稚園を利用していない親は利用している親よりも、近所の人と交流がないと回答する割合が高いことが確認できた。

【図表 3】施設の利用状況と近所付き合いの有無

		(n=2,187)		
		近所の人との交流		合計
		交流がある	まったく付き合いがない	
施設の利用	保育所や幼稚園に預けている	90.01%	9.99%	100.00%
	保育所や幼稚園に預けていない	79.73%	20.27%	100.00%
	合計	86.83%	13.17%	100.00%

近所の人との交流がない親がどのような悩みを抱えているのか検討するために、「現在、お子さんのことや子育てに関することで、心配ことや悩みごとはありますか。」と近所の人との交流の有無とでクロス集計を行った（図表 4）。その結果、近所の人との交流と「子育て環境に関すること」に統計的に有意な関連が見られ、近所の人と交流がない親は、子育て環境に関する心配ごとや悩みごとがあると回答する割合が高いことが確認できた。

さらに、子育て環境に関する心配ごとや悩みごとがあると回答した親について、「子どもを同年代の子どもと遊ばせるきっかけがない」、「子どもを安心して預けられる人や場所が少ない」と近所の人との交流の有無とでクロス集計を行ったところ、統計的に有意な関連が見られた（図表 5、6）。近所の人と交流がない親は、子どもを同年代の子どもと遊ばせるきっかけがないと回答する割合が高く、子どもを安心して預けられる人や場所が少ないことに関する心配ごとや悩みごとがあると回答する割合も高いことが確認できた。

【図表 4】 近所付き合いの有無と子育て環境に関する心配ごとや悩みごと

		(n=2,223)		
		子育て環境に関する心配ごとや悩みごと		合計
		ない	ある	
近所の人との交流	交流がある	66.51%	33.49%	100.00%
	まったく付き合いがない	46.94%	53.06%	100.00%
	合計	63.92%	36.08%	100.00%

【図表 5】 近所付き合いの有無と同年代の子どもと遊ばせるきっかけに関する心配ごとや悩みごと

		(n=802)		
		子どもを同年代の子どもと遊ばせるきっかけに関する心配ごとや悩みごと		合計
		ない	ある	
近所の人との交流	交流がある	67.80%	32.20%	100.00%
	まったく付き合いがない	44.87%	55.13%	100.00%
	合計	63.34%	36.66%	100.00%

【図表 6】 近所付き合いの有無と安心して預けられる人や場所が少ないに関する心配ごとや悩みごと

		(n=802)		
		子どもを安心して預けられる人や場所がないことに関する心配ごとや悩みごと		合計
		ない	ある	
近所の人との交流	交流がある	65.48%	34.52%	100.00%
	まったく付き合いがない	55.77%	44.23%	100.00%
	合計	63.59%	36.41%	100.00%

以上の分析から、近所の人との交流の有無と、同年代の子どもと遊ばせる機会や子どもを安心して預けられる人や場所に関する悩みごとの有無に関連があることがわかった。居住年数が少ないほど近所との交流がない傾向も見られたことから、転居等で新たに川崎市での子育てを開始する親が心配ごとを抱えている可能性が高いと考えられ、支援が必要であることが示唆される。また、保育所等を利用していない親は、近所の人との交流がないと回答した割合が高いことから、子どもを預ける施設を利用していない親についても支援が必要であると考えられる。

3 親と子の連動

保護者の持つ将来展望が子どもに影響しているかを検討するために、小学5年生、中学2年生の保護者に、「大学を出ないとよい仕事につけないと思う」、「子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ」と尋ね、「そう思う」、「まあそう思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の4つの選択肢から回答してもらった。さらにその子どもに対して同様の質問を行い、その関連を確認した(図表7、8、9、10)。その結果、小学5年生、中学2年生ともに統計的に有意な関連が見られ、保護者が「そう思う」と回答した子どもは「そう思う」と回答した割合が高く、また、保護者が「そう思わない」と回答した子どもは「そう思わない」と回答した割合が高かった。

【図表7】小学5年生大学を出ないとよい仕事につけないと思う

		子ども					(n=2,558)
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計
保護者	そう思う	46.62%	32.43%	8.56%	6.31%	6.08%	100.00%
	まあそう思う	32.44%	32.78%	12.40%	10.93%	11.45%	100.00%
	あまりそう思わない	25.48%	30.67%	13.63%	13.93%	16.30%	100.00%
	そう思わない	18.53%	27.62%	18.88%	23.43%	11.54%	100.00%
	合計	31.51%	31.59%	12.78%	12.31%	11.81%	100.00%

【図表8】小学5年生希望する学校や会社に入れるか不安だ

		子ども					(n=2,552)
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計
保護者	そう思う	38.05%	30.44%	12.04%	7.79%	11.68%	100.00%
	まあそう思う	29.67%	36.34%	11.54%	11.00%	11.45%	100.00%
	あまりそう思わない	25.55%	34.42%	13.59%	14.03%	12.41%	100.00%
	そう思わない	23.88%	31.34%	14.93%	18.91%	10.95%	100.00%
	合計	29.98%	34.13%	12.46%	11.72%	11.72%	100.00%

【図表9】中学2年生大学を出ないとよい仕事につけないと思う

		子ども					(n=2,757)
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計
保護者	そう思う	49.89%	30.57%	7.82%	7.82%	3.91%	100.00%
	まあそう思う	34.61%	39.73%	10.91%	10.40%	4.35%	100.00%
	あまりそう思わない	24.56%	37.59%	15.79%	15.91%	6.14%	100.00%
	そう思わない	21.08%	31.05%	15.67%	23.36%	8.83%	100.00%
	合計	32.39%	36.56%	12.44%	13.24%	5.37%	100.00%

【図表10】中学2年生希望する学校や会社に入れるか不安だ

		子ども					(n=2,748)
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計
保護者	そう思う	51.30%	28.87%	7.68%	4.96%	7.19%	100.00%
	まあそう思う	46.27%	34.81%	6.72%	5.24%	6.96%	100.00%
	あまりそう思わない	42.16%	33.08%	10.40%	7.18%	7.18%	100.00%
	そう思わない	40.84%	30.89%	8.38%	9.95%	9.95%	100.00%
	合計	46.58%	32.46%	7.82%	5.86%	7.28%	100.00%

次に、保護者の所得と望む学歴が子どもに影響しているかを検討するため、保護者に「お子さんについて、どの段階まで教育を受けさせたいと希望しますか。」と尋ね、その子どもに同様の質問を行い、クロス集計を行った（図表 11、12、13、14、15、16）。なお、「中学校まで」と「高校まで」を合わせて「高校まで」としている。所得については、世帯の年間所得合計額（いわゆる可処分所得）について、平成 30 年度国民生活基礎調査による等価可処分所得の中央値（254 万円）及び貧困線（127 万円）を基準に、貧困線未満の等価可処分所得の世帯を「分類Ⅰ」、貧困線以上等価可処分所得の中央値未満の世帯を「分類Ⅱ」、中央値以上の等価可処分所得の世帯を「分類Ⅲ」の 3 つの区分に分類した。

その結果、小学 5 年生所得分類Ⅰを除き、統計的に有意な関連が見られ、全ての所得分類で保護者が「高校まで」と回答した子どもは「高校まで」と回答した割合が高く、保護者が「大学またはそれ以上」と回答した子どもについては「大学またはそれ以上」と回答した割合が高かった。また、分類Ⅲにおいて、保護者が「大学またはそれ以上」と回答した子どもは「まだわからない」と答えた割合が低かった。なお、小学 5 年生所得分類Ⅰについては、サンプルサイズが小さく χ^2 検定が適用できないため参考掲載としている。

【図表 11】小学 5 年生所得分類Ⅰ 望む学歴（参考）

		子ども				(n=93)
		高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	まだわからない	合計
保護者	分類Ⅰ×高校まで	50.00%	9.09%	9.09%	31.82%	100.00%
	分類Ⅰ×短大・高専・専門学校まで	28.57%	21.43%	14.29%	35.71%	100.00%
	分類Ⅰ×大学またはそれ以上	12.82%	7.69%	48.72%	30.77%	100.00%
	分類Ⅰ×まだわからない	22.22%	16.67%	16.67%	44.44%	100.00%
	合計	25.81%	11.83%	27.96%	34.41%	100.00%

【図表 12】中学 2 年生所得分類Ⅰ 望む学歴

		子ども				(n=142)
		高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	まだわからない	合計
保護者	分類Ⅰ×高校まで	45.45%	15.15%	6.06%	33.33%	100.00%
	分類Ⅰ×短大・高専・専門学校まで	21.21%	33.33%	12.12%	33.33%	100.00%
	分類Ⅰ×大学またはそれ以上	3.70%	16.67%	59.26%	20.37%	100.00%
	分類Ⅰ×まだわからない	18.18%	27.27%	13.64%	40.91%	100.00%
	合計	19.72%	21.83%	28.87%	29.58%	100.00%

【図表 13】小学 5 年生所得分類Ⅱ 望む学歴

		子ども				(n=365)
		高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	まだわからない	合計
保護者	分類Ⅱ×高校まで	42.86%	7.14%	23.81%	26.19%	100.00%
	分類Ⅱ×短大・高専・専門学校まで	21.05%	31.58%	14.04%	33.33%	100.00%
	分類Ⅱ×大学またはそれ以上	16.67%	9.52%	47.62%	26.19%	100.00%
	分類Ⅱ×まだわからない	28.57%	19.64%	17.86%	33.93%	100.00%
	合計	22.19%	14.25%	35.07%	28.49%	100.00%

【図表 14】 中学 2 年生所得分類Ⅱ望む学歴

		子ども				(n=456)
		高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	まだわからない	合計
保護者	分類Ⅱ×高校まで	59.42%	10.14%	8.70%	21.74%	100.00%
	分類Ⅱ×短大・高専・専門学校まで	17.53%	39.18%	18.56%	24.74%	100.00%
	分類Ⅱ×大学またはそれ以上	6.88%	5.05%	66.97%	21.10%	100.00%
	分類Ⅱ×まだわからない	19.44%	18.06%	22.22%	40.28%	100.00%
	合計	19.08%	15.13%	40.79%	25.00%	100.00%

【図表 15】 小学 5 年生所得分類Ⅲ望む学歴

		子ども				(n=1,946)
		高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	まだわからない	合計
保護者	分類Ⅲ×高校まで	47.73%	6.82%	4.55%	40.91%	100.00%
	分類Ⅲ×短大・高専・専門学校まで	15.57%	35.25%	12.30%	36.89%	100.00%
	分類Ⅲ×大学またはそれ以上	6.68%	8.00%	61.21%	24.11%	100.00%
	分類Ⅲ×まだわからない	17.88%	13.41%	24.58%	44.13%	100.00%
	合計	9.20%	10.17%	53.49%	27.13%	100.00%

【図表 16】 中学 2 年生所得分類Ⅲ望む学歴

		子ども				(n=1,913)
		高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	まだわからない	合計
保護者	分類Ⅲ×高校まで	37.97%	12.66%	20.25%	29.11%	100.00%
	分類Ⅲ×短大・高専・専門学校まで	15.79%	34.74%	23.68%	25.79%	100.00%
	分類Ⅲ×大学またはそれ以上	3.98%	4.79%	74.49%	16.73%	100.00%
	分類Ⅲ×まだわからない	11.73%	19.75%	35.80%	32.72%	100.00%
	合計	7.21%	9.36%	63.93%	19.50%	100.00%

子どもが将来望む学歴と「自分のことが好きだ」の回答をクロス集計した結果、小学 5 年生、中学 2 年生ともに統計的に有意な関連が見られ、「高校まで」と回答した子どもは「そう思わない」と回答した割合が高く、「大学またはそれ以上」と回答した子どもは「そう思わない」と回答した割合が低かった（図表 17、18）。

【図表 17】 小学 5 年生望む学歴と自己肯定感

		自分のことが好きだ					(n=2,592)
		そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	わからない	合計
望む学歴	高校まで	21.47	30.13	17.31	20.51	10.58	100
	短大・高専・専門学校まで	23.16	37.87	16.18	12.13	10.66	100
	大学またはそれ以上	34.56	31.44	14.12	11.23	8.66	100
	まだわからない	24.24	27.69	14.60	17.63	15.84	100
	合計	28.90	30.90	14.85	14.24	11.11	100

【図表 18】 中学 2 年生望む学歴と自己肯定感

		自分のことが好きだ					(n=2,776)
		そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	わからない	合計
望む学歴	高校まで	21.91%	25.44%	19.08%	25.09%	8.48%	100.00%
	短大・高専・専門学校まで	16.23%	27.92%	21.75%	23.38%	10.71%	100.00%
	大学またはそれ以上	20.33%	30.80%	21.33%	19.07%	8.47%	100.00%
	まだわからない	16.24%	28.76%	19.63%	20.30%	15.06%	100.00%
	合計	19.16%	29.50%	20.79%	20.43%	10.12%	100.00%

保護者の所得が子どもの学力に影響しているかを確認するため、保護者の所得分類とその子どもの「あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。」の回答について、クロス集計を行った（図表 19、20）。その結果、保護者の所得分類とその子どもの成績には統計的に有意な関連がみられ、所得が低いほど成績が低いと回答する割合が高く、所得が高いほど成績が高いと回答する割合が高かった。

【図表 19】 小学 5 年生保護者の所得分類と子どもの成績

		クラスの中の成績						(n=2,371)
		上のほう	真ん中より上の方	真ん中あたり	真ん中より下の方	下の方	わからない	合計
所得分類	分類Ⅰ	2.17%	7.61%	29.35%	28.26%	15.22%	17.39%	100.00%
	分類Ⅱ	5.93%	18.36%	33.33%	17.51%	12.15%	12.71%	100.00%
	分類Ⅲ	17.66%	22.91%	29.14%	12.26%	5.45%	12.57%	100.00%
	合計	15.31%	21.64%	29.78%	13.67%	6.83%	12.78%	100.00%

【図表 20】 中学 2 年生保護者の所得分類と子どもの成績

		クラスの中の成績						(n=2,468)
		上のほう	真ん中より上の方	真ん中あたり	真ん中より下の方	下の方	わからない	合計
所得分類	分類Ⅰ	2.90%	10.87%	21.74%	23.91%	29.71%	10.87%	100.00%
	分類Ⅱ	4.73%	13.06%	24.32%	22.30%	26.13%	9.46%	100.00%
	分類Ⅲ	10.71%	20.89%	32.34%	17.18%	12.09%	6.79%	100.00%
	合計	9.20%	18.92%	30.31%	18.48%	15.60%	7.50%	100.00%

以上の分析では、親の将来に対する考え方と子どもの将来に対する考え方に関連が見られた。親の所得分類ごとに保護者と子どもの将来望む学歴の関連を確認したが、全ての所得分類で関連が見られたことから、親の所得に関わらず親の持つ考え方が子どもの将来展望に制限をかけてしまっている可能性が示唆される。子どもの将来望む学歴と自己肯定感についても関連が見られ、親の将来展望によって子どもの将来展望に制限がかけられないようにし、子どもの自己肯定感を高めるための施策の実施が必要であると考えられる。また、親の所得分類と子どもの成績に関連が見られたことから、親の所得が子どもの学力に影響を与えている可能性が考えられる。

4 参考文献

清水裕士（2016）。フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案　メディア・情報・コミュニケーション研究，1，59-73。